

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~3日	10月 ~10日	10月 ~17日	10月 ~24日	10月 ~31日	11月 ~7日	11月 ~14日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	85	45	12	7	14	16	14	11	21
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	45	42	31	20	18	16	17	19	11
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	2	0	1	1	0	1	0	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	23	9	3	2	6	7	7	2	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	15	20	6	8	3	4	5	2	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	19	10	4	5	4	2	3	0	3
腸炎ピリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	4	5	0	1	2	0	0	0	1
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* その他の1件はアエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報 令和3年第45週(11月8~11月14日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	9	結核	9	1		3	1	2		2
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	1	つつが虫病	1					1		
	2	レジオネラ症	2			1				1
五類	9	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1						1	
		後天性免疫不全症候群	1						1	
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1		
		梅毒	6					4	1	1
新型コロナウイルス感染症	31	新型コロナウイルス感染症	31	0	3	2	1	4	0	21

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世理町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第45週に4件の報告がありました。年末に向けて、気温の低下により屋内での活動が増えることや、クリスマスやお正月休み等の恒例行事により、社会経済活動が活発になることが考えられます。感染状況が改善している状態を維持し、感染の再拡大を防止するため、引き続き、手洗いやマスク着用、換気、「密」の回避などの基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

2 感染性胃腸炎

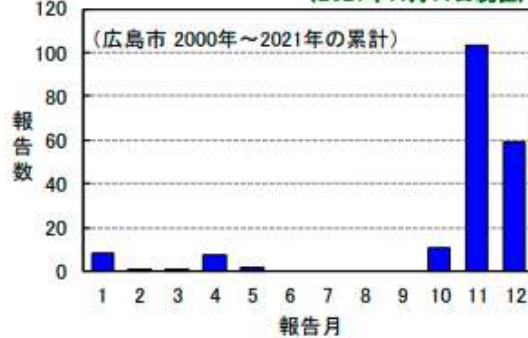
定点当たり3.63人の報告があり、前週と比べて増加しました。冬季はノロウイルス等による感染性胃腸炎が多くなります。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など感染予防対策を徹底しましょう。

3 つつが虫病

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に吸着されることにより感染する感染症で、例年、11～12月にかけて報告数が多くなっています。山や草むらに入るとき、農作業を行うときは、長袖・長ズボン、帽子、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしてダニ類の付着を防ぎ、屋外活動後は入浴してダニ類が付着していないかを確認しましょう。

【参考】つつが虫病について(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000173061.html>

つつが虫の月別報告数 (2021年11月14日現在)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												増減	微増減	
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.64		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.11		急増減	↑	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
	咽頭結膜熱	3	0.13	0.32			RSウイルス感染症	1	0.04	0.38		増減	↔	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.42	2.00			急性出血性結膜炎	-	-	0.05		微増減	↔	
	感染性胃腸炎	87	3.63	6.86	↗	眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.73		横ばい	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
	水痘	1	0.04	0.42			細菌性髄膜炎	-	-	-		ほとんど増減なし		
	手足口病	23	0.96	0.81	↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.06				
	伝染性紅斑	-	-	0.10		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.20				
	突発性発しん	7	0.29	0.36			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	ヘルパンギーナ	14	0.58	0.21	↘		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-				

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	80	50歳代、70歳代
4	つつが虫病	1	2	70歳代
5	梅毒	4	89	30歳代・1人、50歳代・1人、60歳代・2人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	15	60歳代